

会 議 録

| | |
|---------------|--|
| 会議の名称 | 令和元年度第1回結城市総合教育会議 |
| 開催日時 | 令和元年11月25日 午後1時 |
| 開催場所 | 結城市役所 第1会議室 |
| 出席者 | 構成員 結城市長 小林 栄, 教育長 小林 仁, 教育長職務代理者 中村 義明, 教育委員 北嶋節子, 教育委員 岩崎 勤, 教育委員 赤木信之 構成員以外の出席者 市長公室長, 総務課長, 総務課総務係長 教育部長, 学校教育課長, 指導課長, 生涯学習課長, スポーツ振興課長 |
| 議 題 | 意見交換: 結城市の教育の在り方について |
| 公開・非公開の別 | 公開 |
| 傍聴人の数 | 0人 |
| 審議内容 | 別紙のとおり |
| 問合せ先 (事務局) | 結城市役所 市長公室 総務課 総務係 TEL 0296-34-0402 FAX 0296-32-5917 e-mail soumu@city.yuki.lg.jp |
| そ の 他 | |

令和元年度第1回結城市総合教育会議

○日 時 令和元年11月25日 午後1時

○場 所 結城市役所 第1会議室

○出席者

(会議の構成員)

小林 栄 市長

小林 仁 教育長

中村義明 教育長職務代理者

北嶋節子 教育委員

岩崎 勤 教育委員

赤木信之 教育委員

(構成員以外の出席者)

市長公室長，総務課長，総務課総務係長

教育部長，学校教育課長，指導課長，生涯学習課長，スポーツ振興課長

○議題（協議・調整事項）

意見交換：結城市の教育の在り方について

午後1時 開 会

○総務課総務係長 定刻となりましたので、ただいまから令和元年度第1回結城市総合教育会議を開会いたします。

最初に、小林市長よりご挨拶をお願いいたします。

○小林 栄市長（以下「市長」） 【挨拶 省略】

○総務課総務係長 小林市長、ありがとうございました。

続きまして、小林教育長よりご挨拶をお願いいたします。

○小林 仁教育長（以下「教育長」） 【挨拶 省略】

○総務課総務係長 小林教育長、ありがとうございました。

本日が今年度最初の会議となりますので、自己紹介をお願いいたします。

小林市長と小林教育長には、ご挨拶をいただきましたので、中村教育長職務代理人から順をお願いいたします。

【中村教育長職務代理人、北嶋委員、岩崎委員、赤木委員の順で自己紹介 省略】

○総務課総務係長 ありがとうございました。

続きまして、事務局でございますが、市長公室、教育委員会の順をお願いいたします。

【事務局職員の自己紹介 省略】

○総務課総務係長 ここで、会議に入る前に本日の資料の確認をさせていただきます。

【会議資料の確認 省略】

○総務課総務係長 それでは、早速会議に入りたいと思います。

議事の進行につきましては、結城市総合教育会議設置要項第4条の規定により、議長である小林市長にお願いしたいと存じますので、小林市長、よろしくをお願いいたします。

○市長 それでは、規定に基づきまして、議事の進行をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

議題（1）意見交換：結城市の教育の在り方について、教育委員の皆様と意見を交換したいと思います。

◎議題（1）意見交換：結城市の教育の在り方について

○市長 まず私の考えを言わせていただきますね。文教都市の公約を見ていただければ、この時の私の考えというのは、南の方の小学校がどんどん子供が少なくなってきた、江川南小学校に至っては100名を切るような状態になってしまっていることがあります。結城市は南北にすごく広くて、北側の50号バイパス中心から北側に人が集中していて、人口が南側が先にどんどん減っていくという状況にありましてですね、南側の子供たちの教育環境をもう一度見直すべきだなということが大きな一つにありまして。それから県の方針で中高一貫教育が並木、日立、古河とできてきて来年に下

館一高，その次の次の年が下妻一高ということで，新しい知事の方針で，かなり教育に力を入れて，新しいやり方を導入しているというところもありまして，結城も，例えば中高一貫の高校に入れるだけの実力を小学校の教育にもつけてほしい。それと同時に中高一貫でなくても，いわゆる進学校に十分対応できる力を中学生にもつけさせたいという思いがございまして，そういった結城の教育力の底上げをぜひ図っていききたい。そういうことが文教都市のまず教育の面の一点。もちろん勉学に限らず，スポーツの分野でも，例えば音楽の分野でも，とにかくいろんな分野で活躍できる子供たちを育てたい，という目標があります。そして，文化というのは，もちろん歴史を活かしたいというのも大きな柱としてありますが，それと同時に新しい文化の創造だったり，アクロスを中心に南側に拠点を作りたいなど。北側の町には古くから続く伝統ある文化を，結城紬に代表されるような伝統技術のある北側には北側らしい文化の発信をしていきたいというのが柱で，文教都市結城を作るといえるのはそういう思いを込めた公約です。議論の糸口としては，小中一貫を作りたいというのは，南側をどうしようかというのが発端で，南側を小学校・中学校含めてどうやったら教育環境が整備できるかということから，みなさんから聞きながら進めていこうかなと思います。子供が少なくなっていくと，私としては切磋琢磨する環境は必要だと思ってますし，どうでしょうか。

○中村義明教育長職務代理委員（以下「中村委員」） 市長さんにそこまで考えていただけるのは，すごくうれしいことだと思います。具体的に物事を進めるとなると大変複雑で多難なことかと思うんですけども，だんだん人口減少，特に少子化で児童数が減っております。これからも伸びる傾向にはない。そうするとこれは難しいです。子供たちが少なければ少ないなりに濃度の濃い教育が行える。ただし，子供たち同士でお互い切磋琢磨して自分たちで生き抜く力というのは，子供たち同士で競い合ったり，思いを巡らせ合ったりして伸びていく，そういう環境になかなかないと思うんで，私は効率的な教育というのは，実際問題，行政の力というか，お金が結局かかる。1つの学校という組織を運営するのにかなりお金がかかる。大きな館の中に少ない人数でいるのは大変もったいないという思いがしますし，いろいろなことを考えていった結果，いま周りが進めているような教育政策でもあるように統合，その統合についても，小中一貫というモデルに進めていくのは非常にいいと思うんですよね。地元にも前にもそんな話があったはずなんですけど，地域の教育力を含めて地域のご意見がまとまらなくてなかなか統合というのができなかったのは事実なんですよね。非常に難しいのですが，方向性としてはこれからは進められていくべきかなと思います。

○岩崎 勤委員（以下「岩崎委員」） 小中学校一貫という話が私が3年前初めて教育委員になったときにもありましたが，その当時は少人数制の方がいいという

意見もありましたが、実際に栃木に小山など小中一貫校ができたのを見てきて、メディアなどもあると思うんですが、時代的にはこうなるんだということも南地区の人たちも思うようになってきたと私は感じています。市長さんが公約どおりいくとした場合、我々も実際運営とか施設を見ているわけではないので、地域の人にいろいろ質問されてもなかなか答えられないところがあるので、我々も制度的なところを見ていく、その勉強をしながら地域の人々の理解を得る。もしその事業をやるのであれば、私は何年ごとの目標でやっていけば、予算などのいろんな部分もステップなども勉強になると思うので、そういう部分を明確にしていれば、こういう事業はどんどん進んでいくのではと思います。

○北嶋節子委員（以下「北嶋委員」） 私も漠然とそれぞれの学校の人数が少なくなってきたので、そのうち南中学区に南側の小学校の5つが一緒になるんじゃないかという話を父兄とするときもあるのですが、そのうちではなく何年後にきちんと、とやらないといつまでも具体的な話ができないので、子供たちが減っていくのは明らかなので、そういうことを具体的に決めていくのも必要なかなと思います。自分が通っていた学校がなくなるのは嫌なので、吸収されるという形ではなく、全部が一緒になる、そういうところの計画と、実際に統合してからの様子や現場の話を聞かせていただきたいのはあります。

○赤木信之委員（以下「赤木委員」） 私も小中連携一貫というのはちょうどいいタイミングなんじゃないかと考えてます。小さい学校がそれぞれいろんな学校の特色を發揮しながら取り組んでくれている。例えば、江川南小学校で小さい学校だけ保護者・地域の協力を得ながら総合的な学習で白菜や枝豆の収穫で全国に発信している。とってもいい授業だと見ているんですが、やっぱり子供たちから見たら、ある程度大人数の中で切磋琢磨できるような機会を持っていくというのが、子供たちの社会力を高めるためには、小さいころからそういう経験をさせておくのが大事なんじゃないかなと思います。私は、昔つくば市で勤務していたことがあるんですが、あの頃はちょうど小中連携がスタートした時期だったと思います。ただ、建屋が違うとなかなか億劫だなと思ってしまいうんすよね。そうしているうちにつくば市に春日学園という小中一貫ができた。同じ建屋の中で今まで中学校に勤務していた先生が小学校で理科の授業をやったり、音楽の授業をやったり、専門的な授業をやることによって子供たちの興味関心も非常に高まっているというのを受けて、やはり1つの建屋で先生方が廊下を歩いていけば行ける環境を作ることが大事だなと思いました。連携だとなかなかできない部分を、一環という形で同じ敷地で取り組んでいくのが大事じゃないかなと思いました。ただ、予算的な部分で、非常に大変な部分があると思いますが。

○教育長 南地区の小学校が規模が小さいということで、それは課題だなと思って

いて、それが中学校で一緒になって、いま南中へ進学している。そういうなかで小学校が適正規模になっていくことは避けられないと思っています。ただ、それが、小中一貫校がいいのか、小学校・中学校がいいのかは様々な形態がありますので、今後十分な研究する必要があると思います。いま義務教育学校という9か年で動いているところのちょうどいい規模がないんですよね。どちらかというところと極端に小さいか、反対に大きくなりすぎていて非常に弊害が出ている。だから、規模的にそのメリット・デメリットをしっかりと見ながら、より良い子供たちの教育環境が整えられていければ。実際に小学校・中学校も現行の制度でありますので、全てが小中一貫になるわけではないので、より良い形を考えながら、ただし、小学校は適正規模というの、しっかりと見据えた議論をしていかななくちゃいけないのかなと。地域もまたそういう議論が出始めているところがございます。

○市長

さきほどお話が出たように、地元には地元の小学校のいろんな歴史が積み重なったものがあるし、その地域の人たちの思いをきちんと聞き出して、その上で将来をどうしていこうか、この地域をどうしていこうかという話をきちんとするためにも、そろそろ議論は、きちんと調査したり、ある程度固めつつ地元へ話をしに行くタイミングじゃないかなと実は思っております。この間、運動会の様子を見に行ったんですね。南の方はどんな運動会になるのかなと。そしたら、江川南小は人数が少ないのを逆にメリットにして、地元の人達も本当に協力的で、地元の小学校を卒業した中学生も手伝いに来て、こういう運動会も本当にほのぼのとしていてアットホームな運動会だなと思いました。例えば、私の地元は結城西小学校なんですが、西小の運動会とずいぶん雰囲気が違うなと思った部分はありました。それは、人数が少ないところは少ないところの良さがあるんですよね。それも十分に承知したうえで将来的な提案として、市としては子供たちの教育環境のためにも小中一貫のこういう教育をしたいんですという提案ができるように、皆さんとともに知恵を絞り意見を出し合いながらやりたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

それではもうひとつ、それにも少し関係するかもしれませんが、実は選挙公約に学力茨城ナンバーワンを目指すと言ってきましたので、是非みなさんに学力ナンバーワンにするためにはどうしたらいいかと。いままで結城が学力がナンバーワンになったということは。

○教育長

そういうデータはございません。

○市長

小学校で統一テストみたいなのはあるんですか。

○教育長

学力診断のためのテストというのが全県下で行われてます。

○市長

小中あるんですか。

○教育長

小学校・中学校ございます。

○市長

実際どの辺のレベルに結城はあるんですか。

○指導課長

学力の現状なんですけども、本市の場合、その学力をどういったところ

で診断というところで、大きく2つあり、全国学力学習状況調査を4月に小学6年生と中学3年生と対象に実施しています。小学生は国語と算数、中学校は国語と数学と今年度は英語を実施いたしました。2つ目の指標にしているのは、茨城県学力診断のためのテスト。こちらは11月に中学3年生が、年が明けまして1月に小学3年生から中学2年生を対象にして実施しております。全国学力学習状況調査は、学年がその学年だけですので、経年変化でその子たちがどう伸びたかは計り知れないんですけども、例年の傾向といたしまして、ほぼ本市の子達は、全国平均と比べまして、毎年国語に関しては上回っているが、算数・数学に至りましてはやや下回っている傾向が例年出ております。全国平均と比較すると算数、数学に課題があるというところで本市はとらえております。そのために授業力向上であるとか、授業で算数・数学にはTTとして複数で授業を行っています。ただ、来年度から実施される新学習指導要領で子供たちに身に着けたい新しい学力観としては、これまでの知識理解だけではなく、予測困難な時代にあっても生きていく力をつけるような、活用できる力をつけるというのを学力ととらえています。

○市長 学力診断のためのテストは。

○指導課長 学力診断のためのテストの傾向でございますけれども、県と比較して全体的なことを申しますと、小学校3年生から上の学年に行くに従ってやや県平均より劣る傾向にあります。今年度は、今の3・4年生は全教科を通して県平均よりできていますが、5・6年生になるに従って同等或いはやや落ちるという傾向になっております。中学校の大きな傾向としては、全教科を通して県平均よりは落ちているという傾向にあります。上の学年に行くに従って県平均よりは下回ってしまうという傾向にあります。

○市長 そうか、現実には厳しいか。学力向上のためのお知恵をお借りしていきま
すか。どうでしょう。なかなか厳しいですね。学童保育とペアで、そ
こで学習するという、そういうことは可能なかね。

○教育長 現実的には、学童で宿題をやった後遊んだり、そういう取組みはされて
いるのかなど。詳細はそれぞれの学童によって違うと思いますが、宿題は
そこでやって、その後活動しているところが多いのではないかと。

○市長 先生方、例えば多少なりとも時間がある先生が中にはいらっしゃると思
いますが、そういった人たちに、学校の授業みたいじゃなくても情報セン
ターの展望台を使って理科に興味を持たせるとか、理科で面白い実験をや
るとか、学習に興味を持たせるような、学童保育にそんな1時間をつくる
とか、そんな手段を考えていかないかね。

○中村委員 極論かもしれないんですが、忌憚のない意見ということで。私は、教育
に当たる者、とりわけ学校の教員に目を向けた時に、教員の質の向上に勝
るものはない。これに尽きると思います。江川南小学校で1クラス10人、
西小はいま36人、ひとりの先生が片や10人、片や36人に、指導要領

の内容を教えていかなければならない。でも、片方は3倍以上の時間を先生と共有できるとなると、普通にやっけていても必ず学力は上がるはずなんです。そこに有能な教員がいれば輪にかけて子供たちは能力を発揮できると思うんです。やっぱり有能な教員、それを活かせる管理者、校長、学校が一枚岩になって取り組むというそういう姿勢がすごく大事だと思うし、いま私たちが校長の立場になって考えるときに、いま置かれている学校の環境はどうだろうかというのを、こんな小さなコンパクトな学校をこれだけの人間、実数は少ないです。でもひとりの先生が1つのクラスを持つのは変わらないわけです。そのときに、ほかの大きな学校と比べて何か違うことはないか、というときに、時間が十分あります、成績を上げられるぞ、という風に打ち出せば、校長が考えたビジョンが反映されるに違いないと思います。いろいろな状況があつてうまくいかないこともあるかもしれませんが、どこでも考えることなんです。いい先生を取りたいです。地域もそうです。長くなってしまいそうなので、この辺で。

○北嶋委員

私が普段思っているのは、学力が向上してないのは家庭教育で規則正しい生活習慣を子供たちがきちんと身につけてなくて、家庭でしっかりやるべきことをやって学校に送り出すというのが、すごく不足しているような感じで、いまの世代のお母さんたちはすごく忙しいので、忙しいのは十分わかっているんですけども、学齢のときにしっかりしつけることをやっておかないと後後ずっとできない子供になってしまうので、習慣づけることというのは、家庭で最低限のしつけをきちんとやって学校に送り出すような幼児教育をみんなにやってもらって、それで学校に行けば学力も伴っていくんじゃないかと思います。もうちょっと家庭でやるべきこと学校でやるべきことを区別して、その上で学力も伴っていくんじゃないかなと思います。

○岩崎委員

学校環境ももちろん重要ですが、どんな先生と出会ったか、それで、その教科とかにすごく興味をもって好きになったりということがあるので、もちろん勉強を指導する能力も重要ですが、それ以外の部分でも、普段の中での先生のいろんな経験とか、例えば外国に行った時の話とか、そういうところから興味ができて、そういう先生との出会いの中で1つのものが得意になる、それがいくつにもつながっていくという風になっていくんじゃないかと思うので、環境、人材が合わさってくるとよりいい形になってくるのかなと。あとは、子供たちには自己管理能力を身に付けさせるというのが非常に大事で、そうすると生活にメリハリがつくと思います。話を聞くと親の方にも身に付いていないと見受けられますので、その点も考えていかなくていけないと思います。本来は家庭で身に付けさせる部分ですが、何とか学校の学びの中で身に付けさせることができないか、そうすれば学力的な部分にもいい方向に行くのではないかと、思います。

○赤木委員

教員の指導力、授業力を向上させるのがまず第一の条件ですが、全体的

に結城市の取組みを見ていますと、研修体制が十分にできていると思います。そういう中でひとりひとりの職員が少しでも伸びるんだ、力をつけるんだ、という認識を持たせるのは、校長、教頭の役割でしょうし、そういう雰囲気ですべてを進めるのが大事な方向じゃないかなと思います。一番大事なのは家庭・地域の教育力を底上げしていくことかなと思います。買い物に行った時などに親子の動きを見てみると、子供がとんでもないことをやっても親が近くにいても注意できない、指導できない。そういう時にだめだ、ときちんと指導できる親の力量ですとか、親の考え方を育てる。よく3歳児検診とか、小学校入学する前の保護者に就学前家庭教育学級というものをやっていますが、そういう学校に入る前に親としてどういう風に子供たちに関わっていったらいいのか、地域としてどういう風に関わっていったらいいか、そういうところを再度見直して、家庭・地域全体を底上げしながら、じゃあ学校でお願いしますという形で、進められるような雰囲気ができるといいなと感じます。

○市長 先生が替わるとすぐ分かるというのは、実際に聞いた話で、ブラスバンドで有名な毎年すごい成績を出す学校が、先生が異動しちゃったら異動した先の成績が良くなるというのが良く聞く話ですよ。先生というのはすごく影響力が大きいということは、よく分かっていますので。

○中村委員 トータル的ないろんな課題があって、そのとおりなんですよ。委員さんがお話ししてくれて、学校は、学校長或いは先生方だけで運営するんじゃないんですよ。チーム学校という言葉があります。それは、地域、地域にはPTAなりコミュニティ、それからその他たくさんのかかわる各種の社会教育委員さんや民生委員さんとかをすべて含めた地域、ドクターも含めてですね。で、それはいま叫ばれているところなんですけど、なかなかそれが実現できないのがネットワークづくり。なかなかできない。例えば、こういうことでいいなと思うことで、私は結城EDUネットワークっていうのを作ったんです。私的なサークルなんですけど、それが2年目なんですけど、私たち教育委員と、社会教育委員と、市P連、女性ネットワークでフリートーキングなんですよ。そうするとそれぞれ問題を抱えてらっしゃる。それぞれみな同じ問題を、子供を育てていくうえで問題を共有していかなければならないというのがフリートークの結論なんですよ。これは教育長にも管轄には話はしてあることなんですけど、行政を入れないで自由にできるというスタンスを置くためにやっているんですけども。皆さん忙しいのもあるし、立場もあるからなかなか共有できないんですけど、最低限はPTA会長と校長ですよ。そこからスタートする、同じフィフティ・フィフティで子供たちのことを考える、私はずっと考えてやってきました。そういうところから始まる。でも、今はお互いに学校もPTAさんも遠慮しているところがある。やっとお願ひしてなっていたいただいたPTA会長さんにこんなことは話せないよね、こんなことはお願ひできないよねじゃなくて、お

互いに腹を割って話せる、それをやっぱり構築していかないとできないんじゃないかと思う。あとは、文教政策なり福祉政策なりを私は1つの器で考えればいいと思うんですよね。例えば、栃木市では福祉部と教育部が一緒のフロアなんですね。そうすると話がどんどん広がってくる。子供たちの置かれている環境って家庭なり地域なり福祉行政の中に必ずありますよね。あの子の家がと言ったときに、必ず福祉部の問題が係わる。福祉行政と教育行政が市の行政の中でより緊密にしていくと、それに応じて地域が活性化していくとチーム学校ができるのかなという思いがしているんです。実際に行動に移せる移せないは別ですが、とにかく子供たちを取り巻く環境の中で一番大きいのはやっぱり人なんですね。それをつなぐのは行政かなと思います。そんなことを考えています。

○市長

私は、ずっと子育て支援を前面に出してお話してきたんですけど、子育て支援が若い人たちを定着させるのにつながって、若い人たちが定着するからこそ高齢者の人たちにも思うようなサービスが提供できますよ、という話をしてきたんです。いまずっと言われてるように経済格差が教育格差にそのままつながるといわれてきているので、福祉分野と教育分野も行政の大きなテーマなので。地域と連携するということで、私がPTA会長をやっていた頃も、まずは親が変われば子供が変わるとよくずっと言われていて、いまでもずっと言われてきているということは、なかなか達成できていないということなんですよ。地域の教育力を上げるというのは、家庭・地域の教育力を上げるというのは大きな課題なんだけども、どうやったら実際に上げられるのかというのはなかなか難しいけども、やると決めないとやれないものですよ。来年度できるかどうかわかりませんが、例えばどこかにモデル地区を1つ作って1回トライを、地域と話し合いながら子供たちをどうやって地域で見守って教育をして、子供たちの親を対象にした研修会じゃないけど勉強会をやろうとかね。ずっとなかなか難しいということだと終わってしまうので、どこかモデル地区を一度指定してやってみるのもいいかもしれないですよ。そういった意味ではいろんな行政でやっている研修会であったり、とにかくいろんな情報を取って、いろんなふさわしい親教育を1回やってみたいという気もいたしますね。教育委員の皆様にもそこまでご負担いただくのも大変ですけども。ちょっとモデル地区を指定しながら1回トライしてみる価値があると感じますね。

○赤木委員

いま市長さんがおっしゃったモデル地区ということで、いまそれぞれの家庭が、若いお母さん方お父さん方が孤立してしまっていると思います。子供が学校に行きたくないといっている、どうしたらいいのかなというのを隣の人に相談できるような仕組み、その地域で隣のおじさんがこんなこと言ってくれたよ、おばあちゃんがこんなこと言っていたよ、と若い家庭がそういう風に関わりあえるような、地域の力というのをモデル地区を作ってこういう風にやってみよう、自治会の協力を得ながら若い家庭にみんな

なで協力していこう、アドバイスしてやろうという風な形に取り組んでいくことは非常に効果的じゃないかなと思います。よく育児ノイローゼの話を書きますが、中学校を担当していても、このお母さんもうちょっと周りに相談したほうがいいのにな、という場面はたくさんありましたね。そういう家庭を地域で声をかけあったり、支援できる仕組みがあるといいなど。やっぱりそういうのはモデル地区を作って進めなくちゃできないのかなとお話聞いて感じたんですけども。

○教育長

学校から離れたところで、確かに子供たちの教育って、学校は学校でやれること、家庭は家庭で、地域は地域で、それぞれの力が発揮できれば子供たちはいろんな人にしっかり見守られていると感じながら成長していけるのかなと。そういうところはなかなかいま難しい状況にあるのかなと。学童をやっていたら、学校が終わったら学童に行き、時間が来たら家に帰るという生活になっているわけで。子供たちが地域で生活しているかという、現実的には地域での生活は本当になくなってきているかもしれない。いろんな行事に子供たちは参加はしているにしても、まだまだ主体的に参加するとかそういう機会は少なくなってきているのかなと。子供会やそういうのもちよつとずつ衰退している状況がありますので。あとは、さきほどにもあったように、教師によってその教科が好きになったりというのはだれしもあるかと思いますが、いま放課後は、子供たちは集団下校で終わったらすぐ帰すんですよ。子供たちの安心安全の部分で集団下校をやっているの、学校に残して勉強を見るというのはもうないんです。さきほど市長さんからあった学童というのをもう少しテコ入れしていくというのは、せつかく学校で指導していても、学童では全然違った世界になっていて、ルールとかマナーを学校でしっかり守っていても、学童でわがままになっているということは現実にあるんですよ。そういうところで学習などを大学生やサポーターとかが入って見てあげるのも手立てとしては大事なのかなと。なかなか家庭で、と言われても帰れないわけだから、そんな部分も少し何か頼っていかないかと、さきほど市長さんから出た部分はとても子供たちに対する支援としてはいい仕組みなのかなと思いました。いま中学生が、退職された校長先生方のお骨折りと大学生のサポーターを入れて、中学校で未来塾をやっていますが、そういう部分で小学生のテコ入れがいま必要なのかなと感じています。

○市長

ナンバーワンになるためには平均超えから長期計画にしてやっていかざるを得ないけど、ちよつとずつでいいから、どうやって学習意欲が上向いていくか、教育長にはがんばってもらって、いい先生をたくさん引っ張ってきてもらいたいです。

○市長

私から要望というか是非学校教育の中に取り入れてほしいのは、結城の歴史というか、結城を好きになるのは、私は基本だと思って、結城で育った子供たちが是非結城を好きになって、例えば東京に出ても結城の自慢が

できるような子供たちを育てたいということで、結城を好きになるようなカリキュラムをやっていただけるといいなと思います。この間ベルギーの大使館でキングス・デーのお招きを受けたんですけども、やっぱりこういう人たちに結城の良さをしっかりと、私も紬のPRをしてきましたけど、きちんと話ができるような子供たちがしっかりと育っていけば、優秀な人材を作って外にばかり提供するのではなく結城にも帰ってもらえるようにしたいので、そういった点も含めて結城を誇れる人材を創っていききたい、ということも含めて、是非お願いしたい。

○市長 あとは私に対する要望でも、フリートークでどうぞ。

○中村委員 ICT教育にかかわる問題で、私の考え方なんですけど、いまICT教育のための基盤整備で、具体的にはタブレットを2020年の前までに3人に1台と言われているんですけど、私は導入するうんぬんよりも、ICT教育ってモノを入れるじゃなくて、入れたモノを使えなきゃだめなんで、そこに先生方が道具として使って子供たちに対峙したときに有効活用できるかが問題だと思うんですけどね。その前に、コンピューター室を使ってくださいと言いたい。先生方が取り合いするくらいに使う、そのくらいに先生方のレベルが上がっていないとICT教育が入ってきてタブレットを入れました。それを自由に使って子供たちにいろんな追及をさせましょう、学力を上げましょう、は、まず無理です。いまできることをやる、徹底させることが私がやってきたことなんですけど、いまある設備で十分活用する。有効活用させる。私が常に思っていることなんですけども。

○市長 私も同じような考えではあります。施設はあるものを活かす。

○教育長 パソコンはタブレット式にリースを換えて全ての小中学校のコンピューター室に入っていますので、それを有効活用していくためにはやはり先生方のスキルですね。やはりサポートするスタッフがいなくてどうしても厳しい状況があるので、その辺を考えていかなきゃならないのかな。使いたくても使い方がわからなければ始まらないということですので。でも、パソコン教室としての利用は計画的にやってもらって。いま、結城小と結城中はLANが組んであるのでさらにそれよりも教室で使えるようになっていくわけですから、授業の中でどんどん活用して、使い勝手を見て今後の整備を考えていければ。

○市長 あとは先生のやる気なんですけど、いまあるものを100パーセント使いこなせるようにしようとする先生方が増えてくればいいかなと思いますよ。あとは文化財の保護については是非。

○中村委員 私は上山川に住んでいるんですけど、結城廃寺に個人的に會澤議員さんを中心に同級生仲間で、年に2、3回雑草刈りをして、それだけだと殺風景なのでパンジーやマリーゴールドを植えているんですけどね。そういったものは各地域にあると思うんだけど、文化財の跡地利用というか、景観も含めて何か考えていくのに何か予算、というかサポートできる事業があるかわ

からないんですけど。

○市長公室長 直接文化財ではなくて市民活動に対して補助する制度があります。10万円が限度なんですけども、市民活動支援センターに団体を補助する制度があります。花いっぱい運動なども対象になりますので10万円あれば、結構お花にかけられると思います。

○中村委員 実際に2,30人の地域の方が集まってくれて苗の植え付けをやる。花が咲いたら集まってもらってそこでお茶のみをする。その間の除草作業は実際大変なんですけど、数人になってしまうんですけど、それでも地域の方々が参加するということは、地域が活性化するし、結城が活性化するという歩みになる。文化財にそのものについては専門ではないので詳しくないのでわかりませんが。

○市長 この間の結城紬の関係で、重要無形文化財の保守団体の全国24市町村が関係している16団体の関係で福岡に行ってきたんですけど、文化財を守るというのは、文化庁が入るといろいろややこしくなったりして難しいところがあるんですけどね。結城市にもいろいろ文化財はありますが、そういったところの指定を受けないとなかなかお金が引っ張ってこれないので、城の内の館跡地も1回目の調査が終わったばかりですが、いろいろ考えて観光資源にしていきたいと思います。文化財の活用面で、皆様からいろいろお知恵を借りたいと考えております。

○岩崎委員 いま紬の話がありましたけど、昨年、私のところは大阪の方が紬の体験に来られて。そのあと2年連続で来られたんですね、紬も梅田のデパートで買って持っている。それから、去年は知り合いの茨大の先生から電話があって、アラブ首長国連邦から留学に来ていて、世界遺産ということで結城紬を見に来て体験に来られた方がいます。資料館と体験をしたあと、うちにも来てくれたんですけど。そういう風に外から色々聞かれるので私もできるだけ3分ぐらいで説明できるようにいつも意識しているんです。なかなか難しいですが。いま結城市内でも子供たちが紬の体験をしていると思いますが、地元の、郷土の説明をするのであれば自分の感想を書くのではなくて体験したことをもとに第三者に3分ぐらいで説明できる文章を書いてもらう。1回トライしてみれば、大きくなってそういう場面に出くわしたときに話ができると思うんですよ。外の人からすると興味があるし、大事なことかなと思っているんです。

○市長 ユネスコに登録したインパクトは世界的に大きいですよ。この前のベルギー大使館の女性にまた来年は来てくださいと頼んでおきましたけれども、これからは、知り合いが海外にいる人が増えてくると思うんですよ。紬のPRにもなるし、なおかつ結城の名前が挙がっていくといい相乗効果が出てくると思います。

○市長 みなさんの貴重なご意見をいただきまして、教育行政に反映させていきたいと思っています。また集まる機会を作っていきたいと思っています。今後も皆

さんのお力をお借りしたいと思います。では、ここで、進行は事務局に戻します。

○総務課総務係長 小林市長，ありがとうございました。また，有意義な会議になりましたことを重ねて御礼申し上げます。

それでは，以上をもちまして令和元年度第1回結城市総合教育会議を閉会いたします。